

こども自然共生活動推進プログラム助成

「体験発表会」

☆ 日 時：平成23年3月13日（日） 10：30～16：00

☆ 場 所：山口県セミナーパーク 研修室103

☆ 参加者：95人

☆ 主 催：山口県・財団法人山口県ひとづくり財団

1 スケジュール

- | | |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10：00 | 受付 |
| 10：30～10：35 | 開会 |
| 10：35～12：00 | 講演『市民とともに身近な生きものを探る～タンポポ・カタツムリ・ネズミ』
鈴木 武 氏
(兵庫県立人と自然の博物館研究員) |
| 13：00～15：40 | 体験発表会（15分×7団体） <ol style="list-style-type: none">1 湿地帯の再生によるふれあいの場づくり
(周東里山の会)2 Greener × Greener 「私たちの元気な森づくり」
(（社）ガールスカウト日本連盟山口県支部)3 わんぱく自然（里山・里川・里海）体験プロジェクト
(YSCエコクラブ)4 竜王山の植物保全とふれあいを通じた自然体験
(本山会)5 「出会いの森」自然学校（出会いの森ファンクラブ）6 草添山（517.4m）こども自然体験活動
(千畳里山の会)7 自然と人との共生
(マロニエの森の会) |
| 15：40～15：50 | 質疑応答 |
| 15：50～16：00 | 閉会 |

2 内容

講演『市民とともに身近な生きものを探る～タンポポ・カタツムリ・ネズミ』

生き物調査を市民参加型で実施した方法とその過程、結果について講演をされた。まず、取組みを「地域限定型」と「生き物限定型」の2つに分けて解説した。「地域限定型」はその地域の情報を調べる必要があり、多くの知識や能力を必要とする。一方で「生き物限定型」は、ある特定の生き物のみ限定するため、調査対象のみをまず知ればよいと、初心者でも扱いやすいものである。

今回は、兵庫県等で「生き物限定型」調査に取り組んだ事例のうち、タンポポ・カタツムリ・ネズミの調査について講演された。



講演のなかで、生きたカタツムリやスミスネズミの標本や山口県で採取したタンポポ等を見せていただいた。なにげなく見ていた身近な生き物について、関心を深める良い機会となった。

○ 鈴木先生の講演（別紙 講演資料のとおり）

【体験発表】

次世代を担う子どもたちが自然のすばらしさや大切さを学習するために、県民活動団体が実践する自然共生活動推進プログラムに必要な経費の一部を助成した。これにより自然と人との共生を進めるとともに、創造性豊かなこどもの育成を図ることを目的とした活動の体験発表会を開催した。

7つの発表団体のうち、5団体で各団体が実施したプログラムに参加した子どもたちが感想や体験発表を述べた。

1 湿地帯の再生によるふれあいの場づくり（周東里山の会）

岩国市周東町用田を活動拠点として、ふれあいの場づくりをしている。子どもたちと里山の整備（不用木の整理、湿地の整備等）と沢登りや水辺の教室等を実施し、里山でどろんこになって楽しんだこと等を発表した。参加した小学生は「作業は辛かったけど、いろいろな生物の観察ができたり、泥んこ遊びができて楽しかったです。」と感想を述べた。



2 Greener × Greener 「私たちの元気な森づくり」 山口県支部

（（社）ガールスカウト日本連盟

周南市須々万と光市立野を活動場所として、森の現状、役割等を学び、自然に恵みと大切さを理解するために森林整備と樹名板づくりおよび設置、クラフトづくり、どんぐりを鉢に植える等の活動を実践したことを参加した小学生が発表した。発表者は、森のことを知る機会ができたことや環境について考えるようになったこと等の感想もあわせて発表した。



3 わんぱく自然（里山・里川・里海）体験プロジェクト（YSCエコクラブ）

山口市榎野川流域の里山・里川と榎野川が注ぐ山口湾の干潟を活動場所として、榎野川を知る、野鳥の巣箱作成・設置、アサリの再生事業と海の生き物学習、キノコを通して森の大切さを学ぶ等の自然体験プログラムを実践したこと等を参加した中学生が発表した。発表者は、「里川・里山・里海の活動を通して海の生物の不思議さ等自然の大切さをたくさん学んだ。上流から下流のすべてがつながっていることを実感した。この環境を守りたい。」と感想を述べた。



4 竜王山の植物保全とふれあいを通じての自然体験（本山会）

山陽小野田市にある竜王山を活動場所として、「アサギマダラおいでませ作戦」と名付け、地元の小学生と一緒にアサギマダラ（チョウ）が好み、竜王山に自生するヒヨドリバナを植栽する活動と案内看板設置と自然観察会等を実施した。自然と歴史を活かしたふるさと創造と子どもたちがふるさとの自然に愛着を感じてくれること、また県内外の観光客が訪れることを期待すると述べた。



5 「出会いの森」自然学校（出会いの森ファンクラブ）

下関市阿内薫木「出会いの森」を活動場所として、とんぼ池の拡張作業、倒木の片付け、芋畑の草取りや芋掘り、ビオトープ体験学習、虫探し、森のターザンロープで遊ぶ等の活動を実施した。子どもたちに、自然は放置すればいいとは限らないことを学べる活動とした。参加した小学生の発表では、作業はたいへんだったが、森の中で楽しく活動したこと等の感想を述べた。



6 草添山（517.4m）こども自然体験活動（千畳里山の会）

長門市日置 草添山を活動場所として、登山道の整備や鳥の巣箱かけ等の里山での活動を実施した。活動を通して子ども達にふるさとの自然を愛する心を育てることを考えた。子どもたちは、自然の中でいきいきと活動をした。春には、子どもたちと観察登山を実施する予定だ。今後もこどもとの活動を通して子ども達にふるさとの自然を大切に受け継ぎたいと述べた。



7 自然と人との共生（マロニエの森の会）

山口市宮野上岩杖「森の夢」周辺の里山を活動場所として、散策道整備等を含むキャンプや遊歩道の散策、キノコの学習、ケヤキ等の植樹活動や川遊び等を実施した。参加した小学生の発表では、「キャンプ用のトーチづくりやタケを切って弓を作ったこと、森林や動物の命を大切にすることやいろいろな物を育てること、動物たちの住める環境について学んだ。」「沢登りや魚とり等の活動を通して、遊びの中にも勉強があった。」と感想を述べた。



体験発表会の内容は、団体の方はよくまとめられていて参加者にわかりやすいものでした。また、発表に参加してくださったそれぞれの団体の方々やプログラムに参加した子どもたちに、感謝します。

来年度も「こども自然共生活動推進プログラム助成」を実施します。